

トビウオ通信 (H23 第 6 号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成 23 年度下半期浮魚中長期漁況予報》

平成 23 年 10 月末に長崎市で開催された東シナ海～日本海南西海域の対馬暖流域における主要浮魚類の長期漁況予報会議の内容を基に、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の平成 23 年度下半期（11～3 月）の中・長期的な漁況予測をします。

山陰沖における漁況(来遊)予報〔平成 23 年度下半期(11～3 月)〕

マアジ:前年並み

マサバ:前年並み

マイワシ:前年を上回る

カタクチイワシ:前年を上回る

ウルメイワシ:前年を上回る

※平年：過去 5 年間の平均値

マアジは前年並み

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後 平成 19 年まで減少傾向にあった東シナ海～日本海南西海域における大中型まき網によるマアジの漁獲量は平成 20 年からやや増加傾向に転じ、平成 22 年は前年を上回りました（図 1）。平成 23 年は 1～9 月の漁獲量が約 3 万 7 千トンで、前年並みで推移しています。沖合域の今後（11～3 月期）の漁況は大中型まき網の漁況経過から判断し、前年並みとみられています。

一方、同海域の沿岸域における平成 23 年 4～8 月期の漁獲状況は、前年を下回りました。今後（11～3 月期）の漁況も前年を下回ると予測されています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網による平成 12 年以降のマアジ漁獲量は 3 万トン前後で推移しています。平成 23 年の 1～9 月のマアジの漁獲量は約 1 万 1 千トンで、前年同期の 9 割、平年同期の 6 割でした。これは前年（平成 22 年）同様、春季の海水温の昇温が遅く、マアジの来遊時期が例年より 1 ヶ月以上遅れたことが主因と考えられます（図 2）。

例年、11～3 月期は 0・1 歳魚が漁獲の主体で、2 歳魚以上も漁獲されます。毎年、島根県、鳥取県および日本海区・西海区水産研究所が行っているマアジ新規加入量調査※（マアジ 0 歳魚の山陰沖への来遊量を調べる調査）の結果では、来遊量の多寡を示す加入量指数は前年を下回ると見積もられており、0 歳魚（H23 年生まれ）は前年を下回ると考えられます。1 歳魚（H22 年生まれ）と 2 歳魚（H21 年生まれ）の豊度は、これまでの漁況経過から、それぞれ前年を上回る、前年並みとされ、全体として来遊量は前年並みと考えられています。従って、山陰沖の今後（11～3 月期）の漁況は、前年（約 9 千トン）並みと予測されます。

※マアジ新規加入量調査の詳細については「トビウオ通信 H23 年第 5 号（平成 23 年

7月28日発行)」をご覧ください。

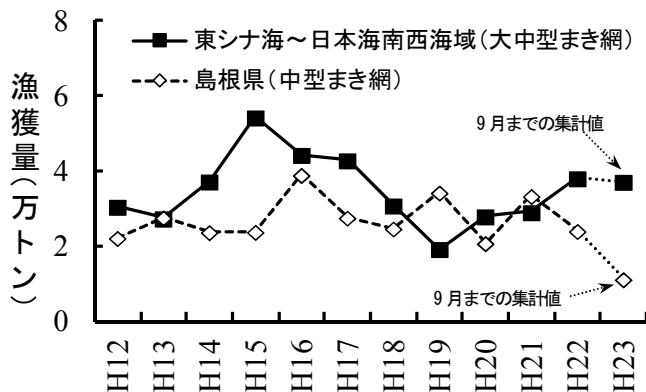


図 1. 東シナ海～日本海南西海域 (大・中型まき網) および島根県 (中型まき網) のマアジ漁獲量の推移
※H23は9月までの集計値

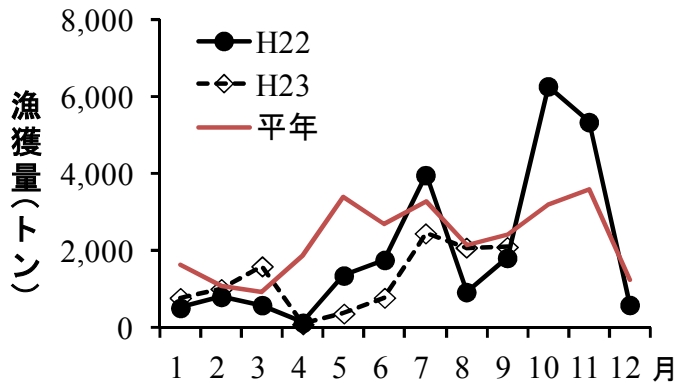


図 2. 島根県の中型まき網によるマアジの月別漁獲動向

マサバは前年並み

東シナ海～日本海南西海域の漁況と今後 東シナ海～日本海南西海域における大・中型まき網によるマサバの漁獲量は、平成19年以降増加傾向にあり、平成22年は前年並みでした(図3)。平成23年は1～9月の漁獲量が約2万1千トンで、前年並みで推移しています。沖合域の今後(11～3月期)の漁況は、前年並みと考えられています。

山陰沖の漁況と今後 島根県の中型まき網によるマサバの漁獲量は平成17年以降増加傾向にありましたが、平成22年は前年を下回りました。平成23年の1～9月の漁獲量は約6千トンで、平年同期の1.2倍、前年同期の2.2倍でした(図4)。例年、10月以降が主漁期となり、0歳魚主体の漁獲で1歳魚以上が混じります。0歳魚(H23年生まれ)、1歳魚(H22年生まれ)の豊度は、各種調査結果と漁況経過からそれぞれ前年を上回る、前年を下回るとされ、全体の来遊量は前年並みと考えられています。従って、山陰沖の今後(11～3月期)の漁況は、前年(約9千トン)並みと予測されます。

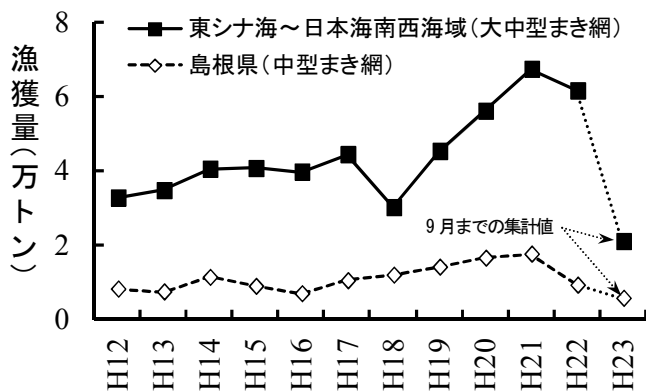


図 3. 東シナ海～日本海南西海域 (大・中型まき網) および島根県 (中型まき網) のマサバ漁獲量の推移
※H23は9月までの集計値

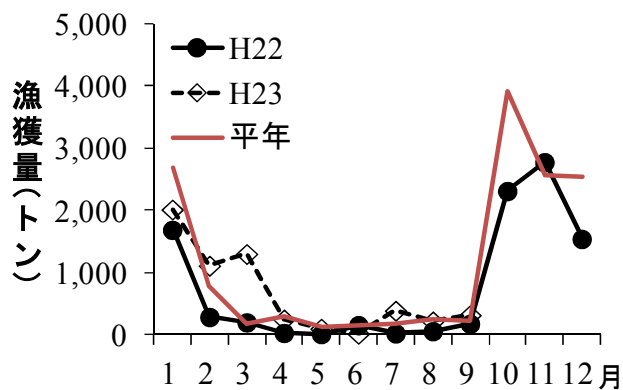


図 4. 島根県の中型まき網によるサバ類の月別漁獲動向

マイワシは前年を上回る

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は平成 15 年以降ゆるやかな増加傾向にあります。平成 23 年は 4～6 月に 1 歳魚（H22 年生まれ）を主体に久しぶりの豊漁が続き、1～9 月の漁獲量は約 2 万 2 千トンと前年・平年を大きく上回りました（図 5、前年同期・平年同期の 8 倍）。太平洋側でも同様の傾向であり、平成 22 年生まれのマイワシは過去 5 年間では最大の豊度と考えられています。

山口県～長崎県の沿岸域では、4～8 月期は前年を上回る漁況でした。平成 23 年生まれの豊度の評価は難しいですが、漁況の経過から平成 22 年生まれと同程度と考えられています。従って、本県沿岸における今後（11～3 月期）の漁況は、1～2 歳魚が漁獲の主体となり、前年（約 5 トン）を上回ると予測されます。

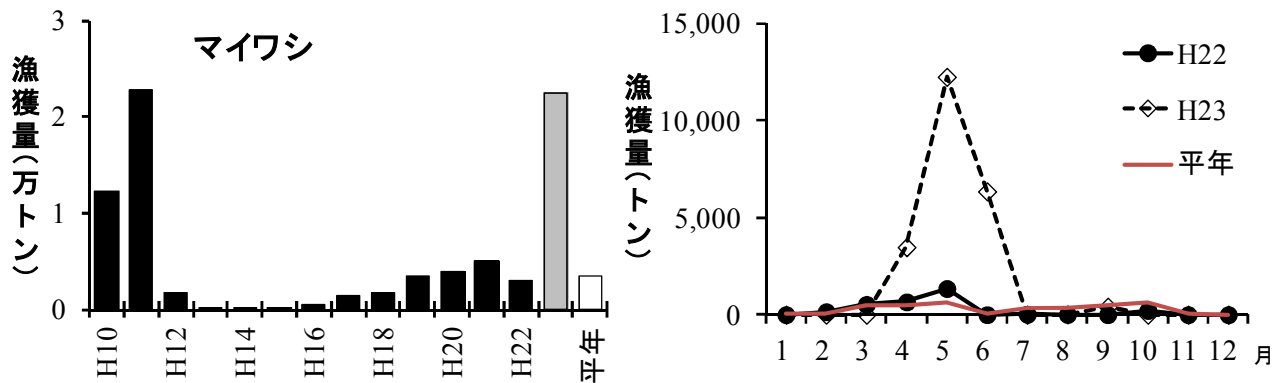


図 5. 島根県中型まき網によるマイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H23 年は 9 月までの集計値

カタクチイワシは前年を上回る

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成 13 年以降増減しながら低調に推移しています。平成 23 年のこれまでの漁況は、3～4 月に 1 歳魚を主体にまとまって漁獲され、1～9 月までの漁獲量は約 1 万 2 千トンで、前年同期の 8 割、平年同期の 1.1 倍でした（図 6）。

過去 5 年間でみると、11～3 月期は 3 月以降が主漁期で、1・2 歳魚が漁獲の主体となります。山口県～鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過からカタクチイワシの平成

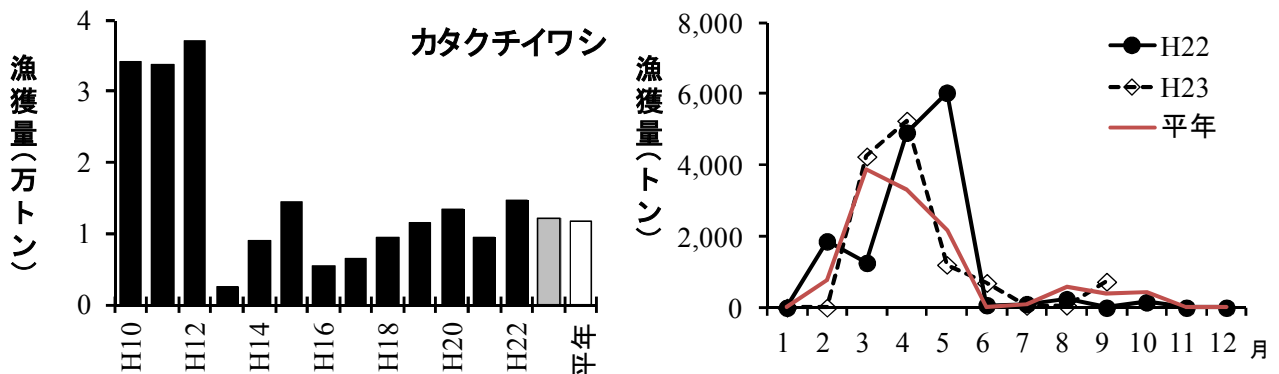


図 6. 島根県中型まき網によるカタクチイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H23 年は 9 月までの集計値

22年春生まれは前年を上回るとされています。従って、本県沿岸における今後（11～3月期）の漁況は、3月が主漁期になり、前年（約3千トン）を上回ると予測されます。

ウルメイワシは前年を上回る

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成14年以降4千～6千トンで安定して推移していましたが、前年（平成22年）は秋漁が好調であったため、9千トン近くの漁獲がありました。

平成23年のこれまでの漁況は、夏季に当歳魚を主体に千トン弱の漁獲があったのみで、1～9月までの漁獲量は約1千トンで、前年・平年の3割で推移しました（図7）。

例年、11～3月期は0・1歳魚が漁獲の主体となります。山口県～鹿児島県におけるこれまでの漁況の経過から、0歳魚（H23年生まれ）の豊度は前年を上回り、1歳魚（H22年生まれ）は前年と同程度か上回ると考えられています。また、本県でも10月に入り約7千トン（速報値）のまとまった漁獲があり、豊度の高さが伺えます。従って、本県沿岸における今後（11～3月期）の漁況は、前年（約1千トン）を上回ると予測されます。

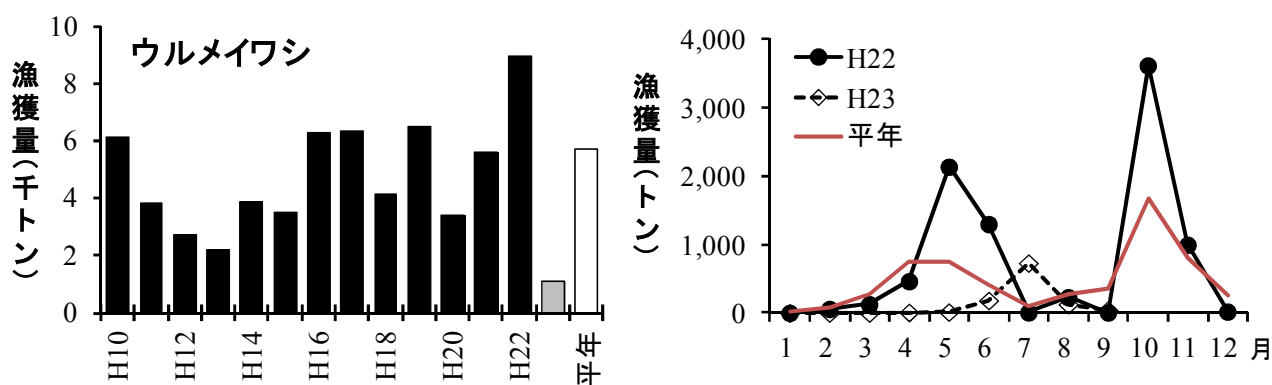


図7. 島根県中型まき網によるウルメイワシの漁獲動向（左図は年別漁獲量、右図は月別漁獲量を示す）※H23年は9月までの集計値